

竹崎漁港機能保全計画【ストックマネジメント】
竹崎漁港(第1種)



平成29年 3月

漁港管理者：鹿児島県南種子町

竹崎漁港機能保全計画【ストックマネジメント】の概要

1. 機能保全計画とは

機能保全計画書は、『水産物供給基盤整備事業等実施運用について(平成13年3月30日付け12水港第4541水産庁長官通知)』(以下、「運用」という。))に基づいて作成した。
機能保全計画とは、現地調査(簡易調査、詳細調査)結果を踏まえて、当該施設の機能を保全するために必要な日常管理や保全・更新工事を盛り込んだ計画のことであり、効率的な維持管理、既存施設の長寿命化及びライフサイクルコストの縮減化を図ることを目的として取りまとめた計画である。機能保全計画は、「運用」の「別記様式第13号」に基づいて作成した。

▽別記様式第13号

- ▼ 施設現況調査

 - ＞ 施設の整備状況
 - ＞ 施設の管理状況及び課題

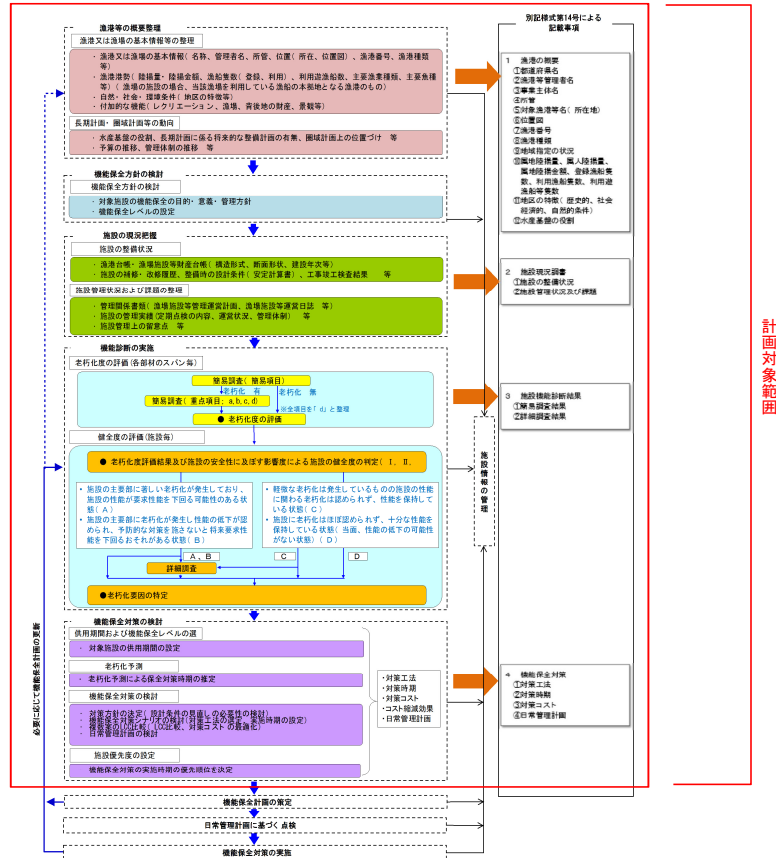
▼ 施設機能診断結果

 - ＞ 簡易調査結果
 - ＞ 機能診断結果
- ▼ 機能保全計画

 - ＞ 対策工法
 - ＞ 対策時期
 - ＞ 対策コスト
 - ＞ コスト縮減計画
 - ＞ 日常管理計画

2. 機能保全計画策定の流れ

機能保全計画は、『水産基盤施設機能保全計画策定の手引き(平成27年5月改訂)水産庁漁港漁場整備部』(以下、「手引き」という。))に基づき策定した。



3. 竹崎漁港の特長

本漁港は、薩南諸島沿岸種子島の南部、東海岸に位置し、左右は岩盤からなる急傾斜の天然海岸と背後地は比較的緩やかな砂浜に囲まれた箇所である。隣接地は、JAXA種子島宇宙センターである。漁業形態として、沿岸漁業を中心とした水産業が行われ、刺網や一本釣り等の漁業が盛んに営まれている。近年は、漁港沖合の内湾部漁業権内において、カツオ、ムロアジ、サバ、マダイ、アサヒガニ等が多く水揚げされ主流となっている。第一次産業が盛んな南種子町において、水産業は地域経済の重要な位置を占め、地区の水産基盤を支えるため重要な施設となっている。

4. 施設整備の概要

当該漁港における機能保全計画対象施設は下表に示すとおり 22施設である。
対象施設の内訳及び一覧表を以下に示す。

機能保全計画策定対象施設内訳【竹崎漁港(22施設)】										
	外郭施設				係留施設			用地・輸送施設		合計 (施設)
	防波堤	導流堤	消波堤	護岸	岸壁	取付護岸	物揚場	船揚場	道路	用地護岸
対象施設数	5	—	—	5	—	3	3	2	2	22

機能保全計画策定対象施設一覧【竹崎漁港(22施設)】

区分	種類	整理番号	施設名称	規模(延長等)	建設又は取得年月日	建設又は取得の価格
外郭施設	防波堤	1	防波堤(4)	49.4m 直立式(コンクリート方塊)	昭和61年3月31日	※39,515千円
		2	防波堤(13)	50.0m 直立式(コンクリート)	昭和60年3月31日	39,995千円
		3	防波堤(22)	35.0m 傾斜堤(消波ブロック式)	昭和62年3月31日	56,829千円
		4	防波堤(23)	81.8m 傾斜堤(消波ブロック式)	平成7年3月31日	44,900千円
		5	消波堤(30)	13.0m 傾斜堤(消波ブロック式)	平成13年3月31日	10,000千円
	護岸	6	護岸(5)	82.0m 重力式(場所打、水コン、方塊)	昭和58年3月31日	※95,931千円
		7	護岸(11)	30.0m 直立式(コンクリート)	昭和62年3月31日	※35,097千円
		8	護岸(15)	26.0m 直立式(コンクリート)	昭和60年3月31日	30,417千円
		9	護岸(20)	48.0m 重力式(コンクリート)	昭和61年3月31日	1,350千円
		10	護岸(25)	180.6m 重力式(コンクリート)	平成12年3月31日	※5,079千円
係留施設	物揚場	11	-2.0物揚場(7)	50.0m 重力式(水中コンクリート)	昭和56年3月31日	23,824千円
		12	-2.0物揚場(16)	62.8m 重力式(水中コンクリート)	昭和61年3月31日	54,630千円
		13	-2.0物揚場(32)	55.0m 重力式(方塊)	平成13年3月31日	58,319千円
	取付護岸	14	-2.0物揚場取付(6)	10.0m 重力式(水中コンクリート)	昭和61年3月31日	※5,872千円
		15	船揚場取付(19)	5.0m 重力式(水中コンクリート)	昭和61年3月31日	※2,936千円
	船揚場	16	-2.0物揚場取付(33)	10.0m 重力式(方塊)	平成13年3月31日	5,872千円
		17	船揚場(10)	21.0m 斜路(コンクリート)	昭和54年3月31日	18,400千円
		18	船揚場(18)	5.0m 斜路(コンクリート)	昭和61年3月31日	34,260千円
輸送施設	道路	19	道路(17)	76.0m (コンクリート舗装)	昭和61年3月31日	6,000千円
		20	道路(26)	180.6m (コンクリート舗装)	平成12年3月31日	※14,258千円
用地施設	用地護岸	21	用地護岸(31)	15.0m 重力式(コンクリート)	平成13年3月31日	※15,905千円
		22	用地護岸(21)	55.0m 重力式(コンクリート)	昭和62年3月31日	※58,319千円

※推定値

竹崎漁港機能保全計画【ストックマネジメント】の概要

7. 施設機能診断の基本方針

施設機能診断は、既存施設に対する老朽化調査から老朽化度の評価を行うことをいう。既存施設の老朽化度調査は、①簡易調査(簡易項目)・②簡易調査(重点項目)・③詳細調査の3段階に分けて行うことを標準とした。ただし、①で当該施設の老朽化度が把握できる場合は②・③は省略し、また同様に②で把握できる場合は③は省略とした。

- ①簡易調査(簡易項目)・・・目視による変状の有無を確認(調査様式5※を用いた)
 - ②簡易調査(重点項目)・・・目視または簡易な計測により変状の規模を確認(調査様式7※を用いた)
 - ③詳細調査・・・・・・・①及び②から老朽化度が判定できない場合に実施
- ※スパン毎(目地割り毎または函体毎)に作成した。

既存施設に対する老朽化度調査分類と健全度一覧表
竹崎漁港(22施設)

区 分	種 類	施 設 名 称		規 模 ＜延長＞ (m)	調 査 番 号	簡易調査		③詳細調査	要対策	健全度
						①簡易 項目 (m)	②重点 項目 (m)	潜水 目視 (m)		
外郭施設	防波堤	1	防波堤(4)	49.4	①②	49.4	49.4	－	▲	B
		2	防波堤(13)	50.0	①②	50.0	50.0	－	×	C
		3	防波堤(22)	35.0	①②	35.0	35.0	－	×	C
		4	防波堤(23)	81.8	①②	81.8	81.8	－	×	C
		5	消波堤(30)	13.0	①②	13.0	13.0	－	×	D
	護 岸	6	護岸(5)	82.0	①②	82.0	82.0	－	▲	B
		7	護岸(11)	30.0	①②	30.0	30.0	－	×	C
		8	護岸(15)	26.0	①②	26.0	26.0	－	×	C
		9	護岸(20)	48.0	①②	48.0	48.0	－	×	C
		10	護岸(25)	180.6	①②	180.6	180.6	－	×	C
係留施設	物揚場	11	－2.0物揚場(7)	50.0	①②③	50.0	50.0	50.0	○	B
		12	－2.0物揚場(16)	62.8	①②③	62.8	62.8	62.8	○	B
		13	－2.0物揚場(32)	55.0	①②③	55.0	55.0	55.0	○	B
	護岸取付	14	－2.0物揚場取付(6)	10.0	①②	10.0	10.0	－	×	C
		15	船揚場取付(19)	5.0	①②	5.0	5.0	－	×	C
	船揚場	16	－2.0物揚場取付(33)	10.0	①②	10.0	10.0	－	×	C
		17	船揚場(10)	21.0	①②	21.0	21.0	－	×	C
		18	船揚場(18)	5.0	①②	5.0	5.0	－	×	C
輸送施設	道 路	19	道路(17)	76.0	①②	76.0	76.0	－	×	C
		20	道路(26)	180.6	①②	180.6	180.6	－	×	C
用地施設	用地護岸	21	用地護岸(31)	15.0	①②	15.0	15.0	－	×	D
		22	用地護岸(21)	55.0	①②	55.0	55.0	－	×	C
合 計				1141.2m	－	1141.2m	1141.2m	167.8m		

○	補修対策が必要である施設(LCCを算出する施設)	3 施設
△	早急な補修対策は必要なし(経過観察を要す)	2 施設
×	補修対策なし(経過観察を要す)	17 施設
計		22 施設

- ・①簡易調査(簡易項目)、②簡易調査(重点項目)については全施設実施した。
- ・③詳細調査では、係留施設を対象に潜水目視調査を実施した。
- ・調査結果より本機能保全計画では竹崎漁港内で重要度が高い-2.0m物揚場(7)、-2.0m物揚場(16)の2施設について対策工の検討を実施した。

◆簡易調査(簡易項目・重点項目)



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況



陸上目視状況

◆詳細調査



潜水目視状況



潜水目視状況



潜水目視状況

竹崎漁港機能保全計画【ストックマネジメント】の概要

8. 対策工法と対策計画

機能保全対策検討より対策が必要とされた施設について、機能保全目標期間(平成29年～平成79年)の対策計画を示す。

※今回機能保全計画において補修が必要と判定された施設を下記に対策工法と対策計画について示し、また他施設については耐用年数等が特定出来ないことから施設に関わる変状が確認された段階で下記に対策工法及び対策時期を入力することとする
単位:千円

[illegible]